

●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

●本説明書で記載している以外の方法での取付けは行わないでください。部品の落下によるケガ・損傷などの原因になります。

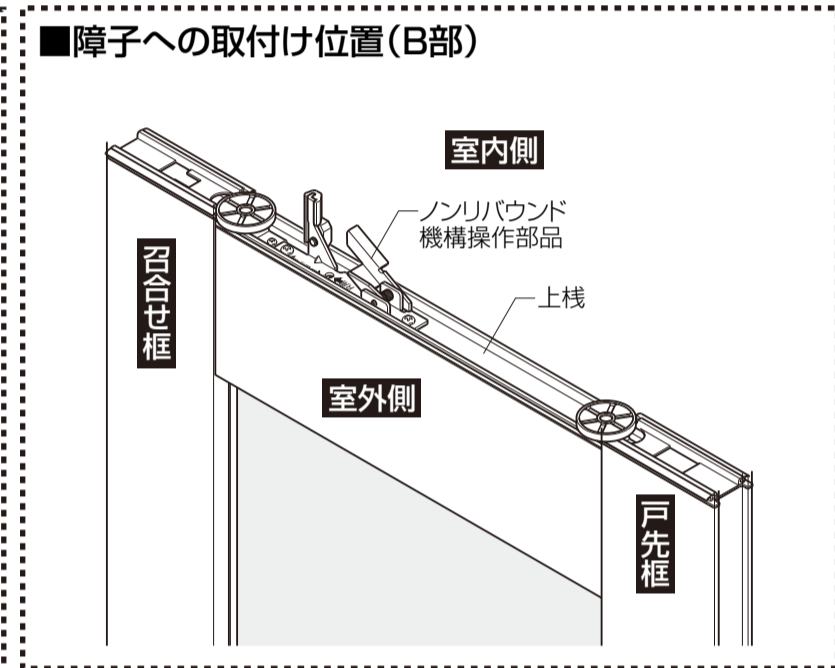
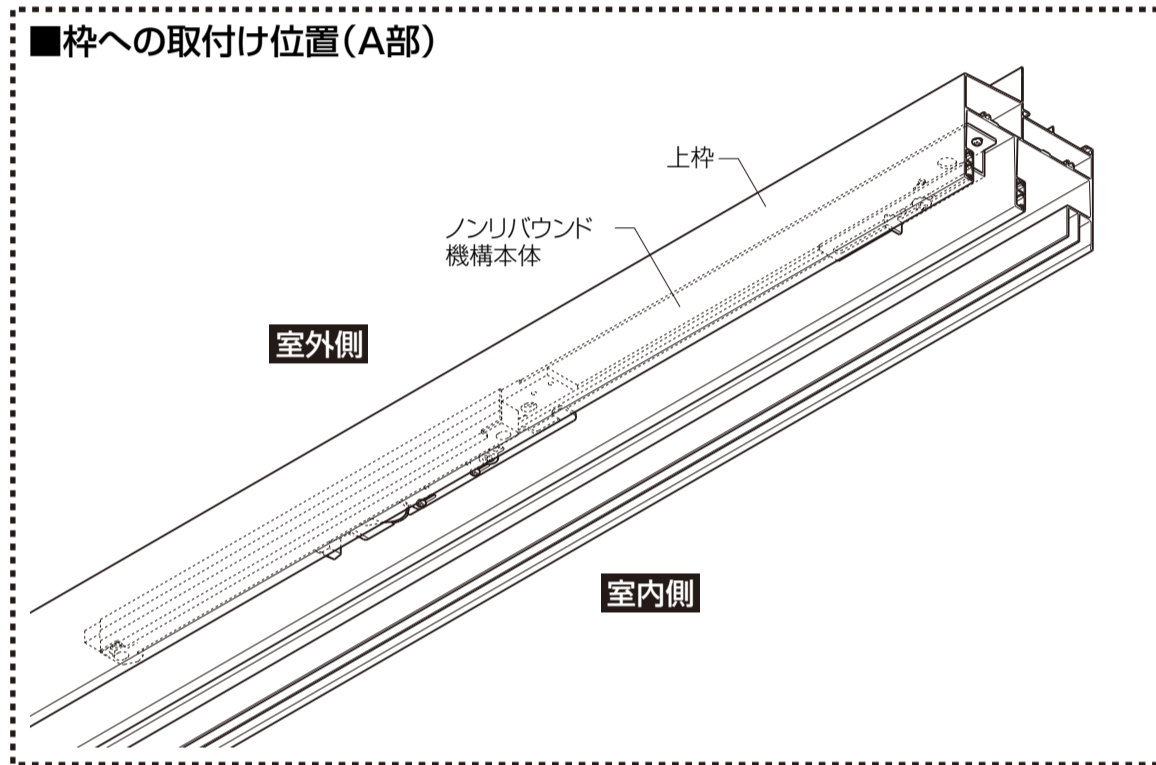
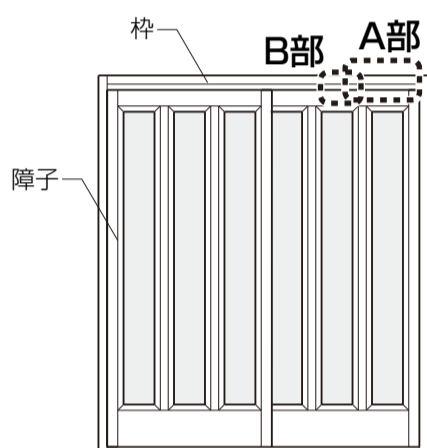
■取付け上のお願い

●ノンリバウンド機構の取付け可能な機種は以下になります。

【玄関引戸k6シリーズ】	2枚建半外付枠・内付枠	片袖枠	一本引枠
外障子取付け		外観右障子取付け(R)	外観右障子取付け(R)
内障子取付け		外観左障子取付け(L)	外観左障子取付け(L)

■取付け順序

●枠にノンリバウンド機構本体、障子にノンリバウンド機構操作部品をそれぞれ取付けます。
※図は2枚建外障子取付けの場合を示します。



■取付け詳細

1 ノンリバウンド機構本体の取付け順序(枠への取付け)

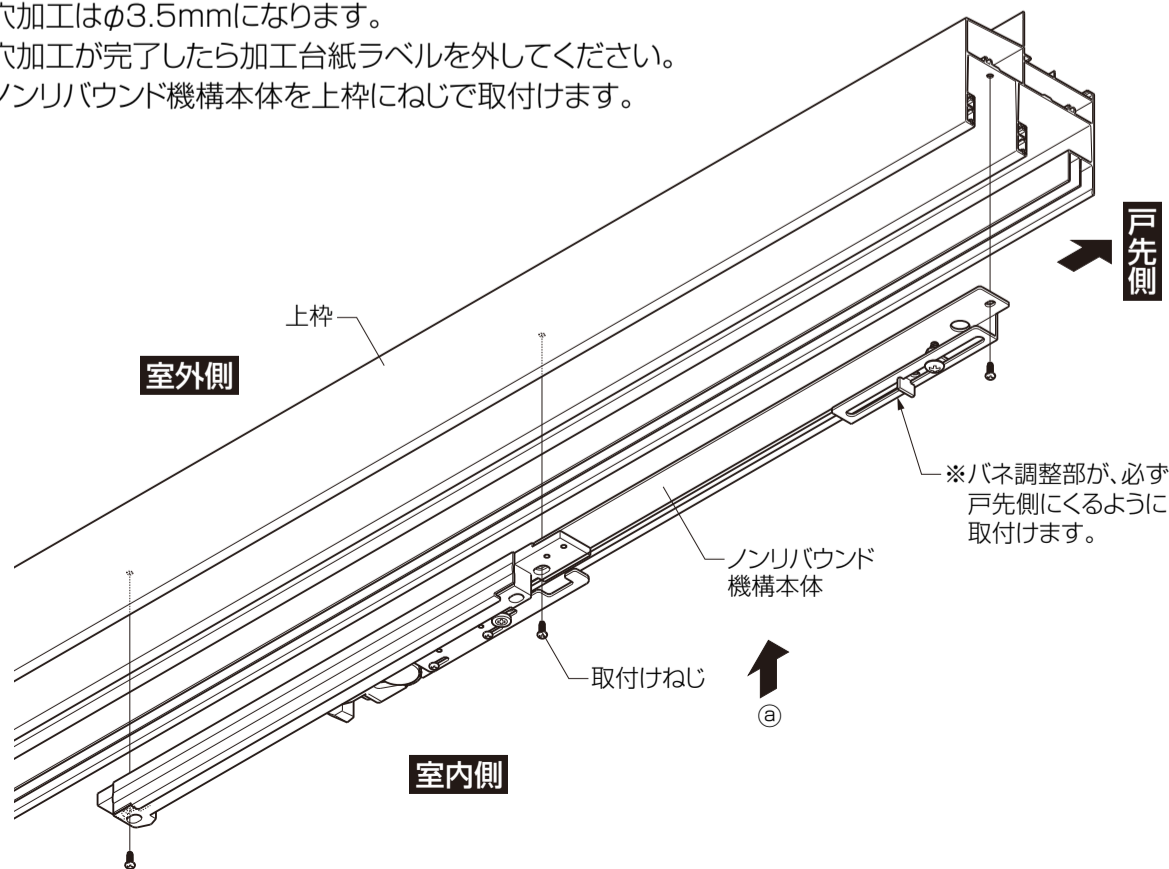
※図は2枚建外障子取付けの場合を示します。
※枠施工前の方が取付けが簡単ですのでおすすめします。
※枠施工後の取付けの場合、部品が落下しないようにテープで仮止めするなどの工夫をしてください。落下すると部品が破損するおそれがあります。

- ①上枠のドブ溝内に加工台紙ラベルを張付けます。
※使用する加工台紙ラベルは、下表を参照して選択してください。
※加工台紙ラベルの張付け位置については、ラベル自体に説明が記載されていますので、説明を読んだ上で取付けてください。
※張付けた位置がずれていると、誤動作の原因になりかねません。加工台紙は正確に張付けてください。

■使用ラベル一覧表(☆印のラベルを使用してください。)

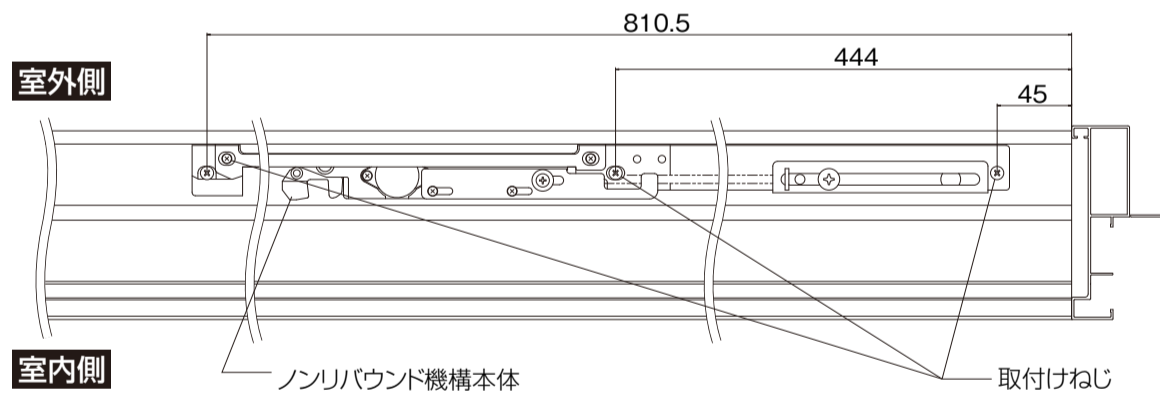
		2枚建外障子取付け 片袖一本引外観右障子取付け	2枚建内障子取付け	片袖一本引外観左障子取付け
使用ラベル	○部加工	☆		☆
	●部加工		☆	

- ②加工台紙ラベルに記載されている3カ所の穴加工をしてください。
※穴加工はφ3.5mmになります。
- ③穴加工が完了したら加工台紙ラベルを外してください。
- ④ノンリバウンド機構本体を上枠にねじで取付けます。

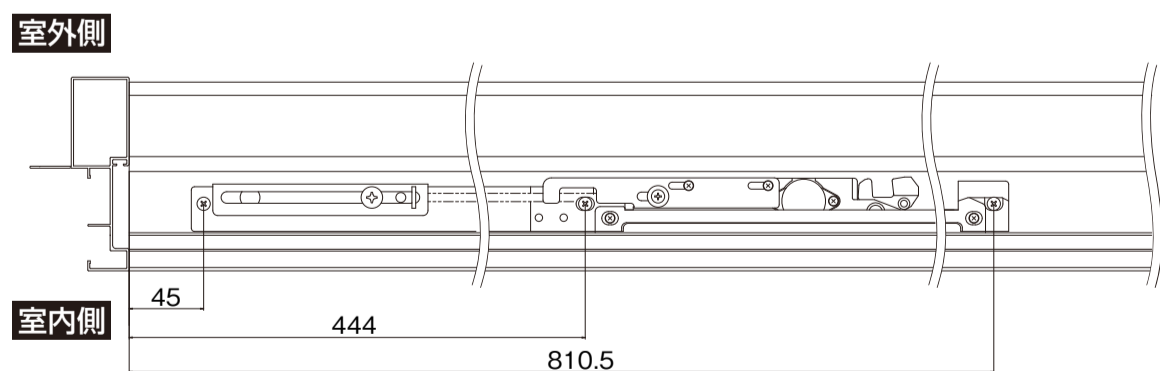


2 ノンリバウンド機構本体の取付け状態図(②矢印の向きから見た図)

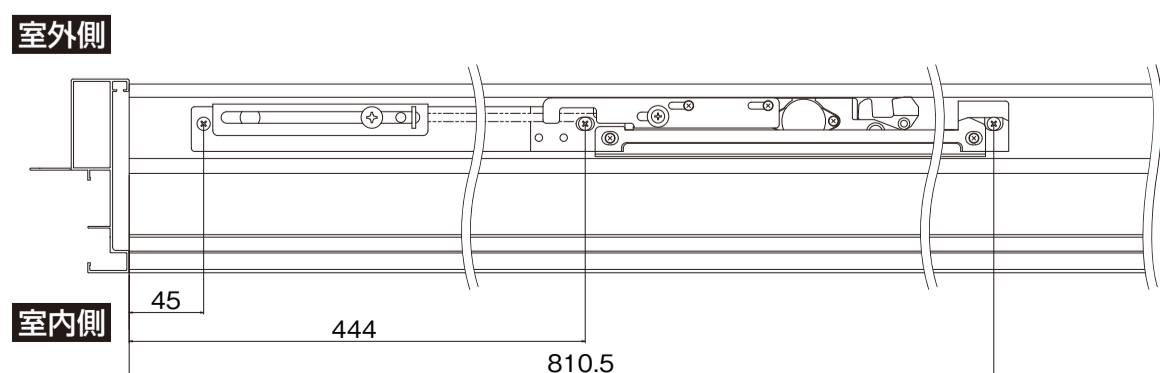
●2枚建外障子取付け/片袖一本引外観右取付けの場合



●2枚建内障子取付けの場合

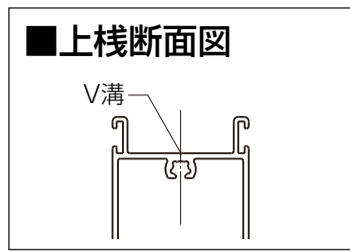


●片袖一本引外観左取付けの場合

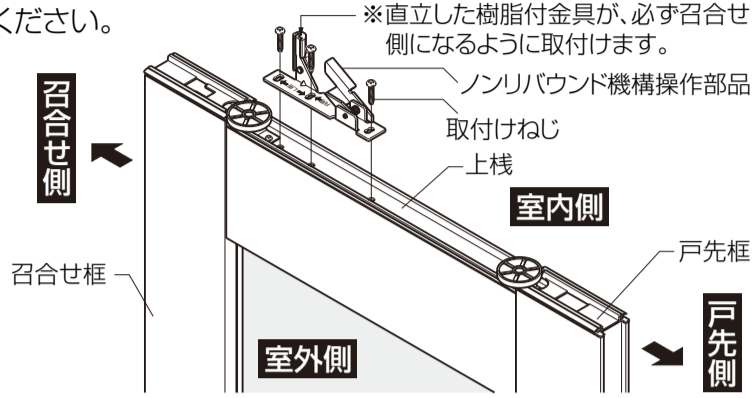


2 ノンリバウンド機構操作部品の取付け順序(障子への取付け)

- ①上棧に3カ所の穴加工をしてください。
 ※穴加工はφ3.5mmになります。
 ※穴加工位置は、上棧のV溝(室内側外方向の上棧の中心)です。右図を参照してください。

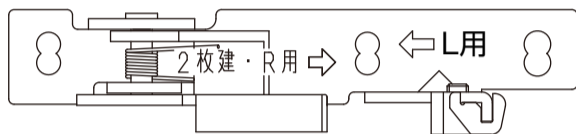


- ②ノンリバウンド機構操作部品を上棧に3カ所、ねじで取付けてください。

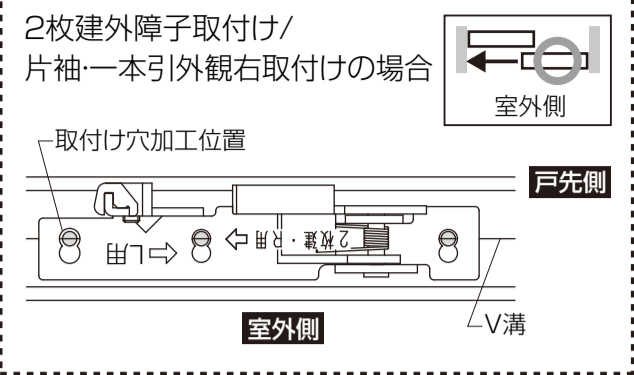
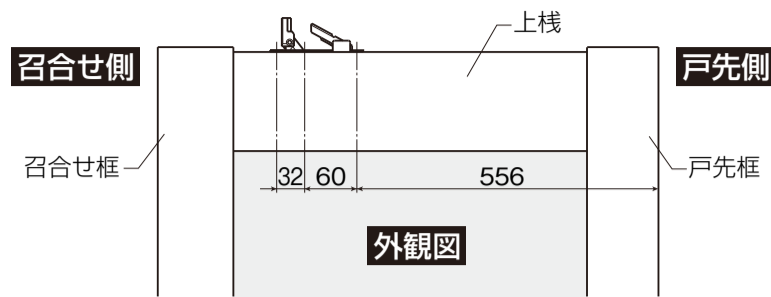


お願い

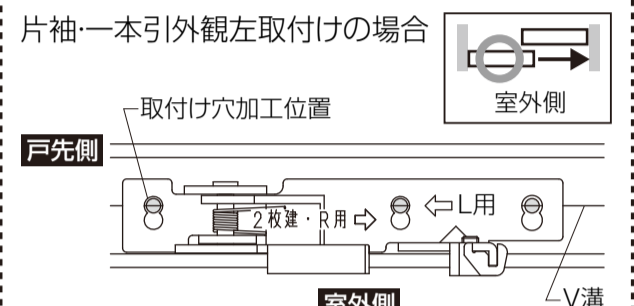
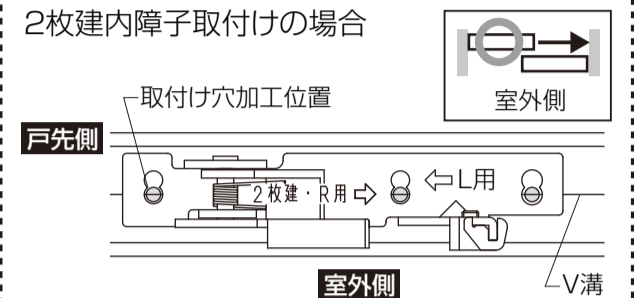
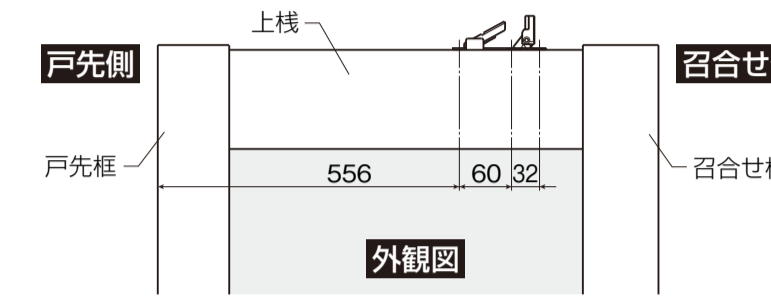
※操作部品は、片袖一本引に取付ける場合、L/Rによって取付けに使用する穴が異なります。部品の刻印に従って取付けてください。取付け穴をまちがえると、操作に異常が出ます。



●2枚建外障子取付け/片袖一本引外観右障子取付けの場合



●2枚建内障子取付け/片袖一本引外観左障子取付けの場合



障子の建込み

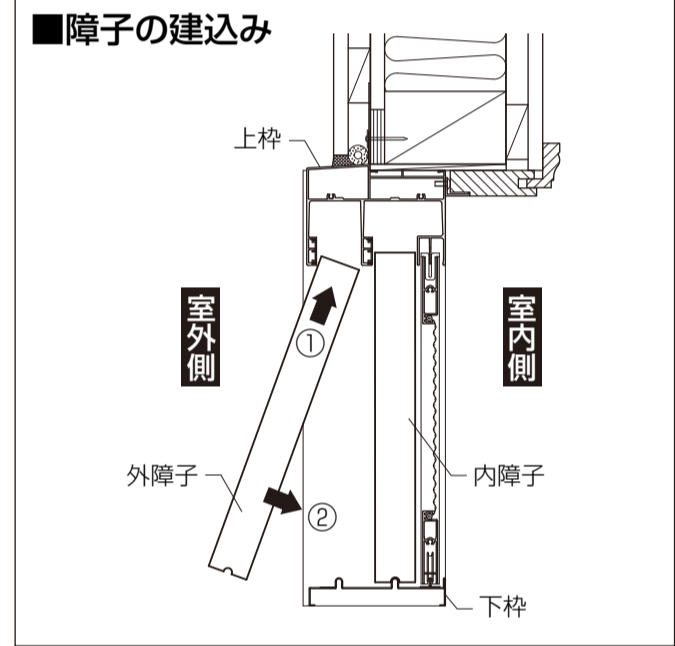
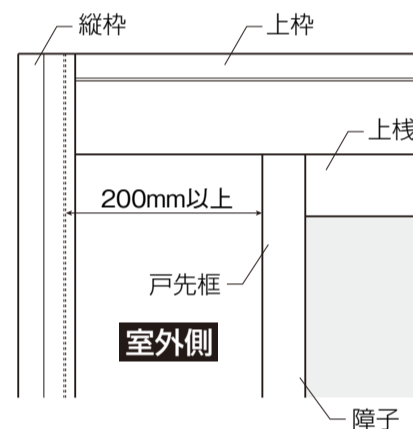
- ※障子を建込む前に以下のことが完了していることを確認してください。
 ・2枚建(外障子にノンリバウンド機構を取付ける場合は、内障子を建込んでください。
 ・片袖は、袖を取付けてください。袖の取付けは、「袖 取付け説明書」をご覧ください。

- ①戸先側を200mm以上開けた状態で、右図の①→②の順に(ケンドンで)障子を建込みます。
 ※戸先側のすき間が小さい状態(200mm以下の時)で建込みをしようとすると、ノンリバウンド機構本体に操作部品が当たり破損するおそれがあります。
 ②障子をゆっくり閉方向に、移動可能位置まで動かします。
 ※建込み直後は障子が最後まで閉まりません。
 ※障子を閉め方向に強く閉めると、ノンリバウンド機構本体が破損するおそれがあります。
 ③障子を全開位置まで動かすと、ノンリバウンド機構が動作可能になります。

- 建込みが完了しましたら、以下の調整を行ってください。

- ・障子の建付け調整
- ・戸車の調整
- ・召合せ気密ピースの調整

※調整方法については、枠に同梱されている「枠 取付け説明書」をご覧ください。



操作方法

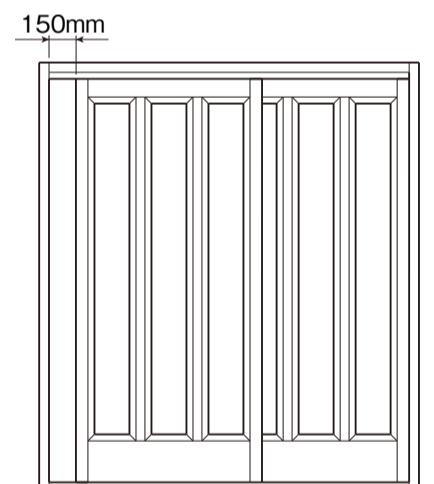
※ノンリバウンド機構は、障子を閉めた勢いで縦枠に当たって跳ね返って止まるのを防止するための機構です。

開け動作

ノンリバウンド機構が動作している区間(戸先から約150mm)は開けるのに重く感じますが、その区間をこえると軽くなります。区間をこえた位置では、障子はどこでも止めることができます。

閉め動作

ノンリバウンド機構が動作している区間(戸先から約150mm)まで障子を閉めれば、その後は(手を離しても)最後まで閉まります。ノンリバウンド機構が動作する区間までの閉め方(勢い)、障子重量、枠の建付け状態、周囲の温度によってブレーキのかかり具合、閉まり時間は変化します。閉まり時間が長い場合は、ある程度勢いをつけて閉めてください。

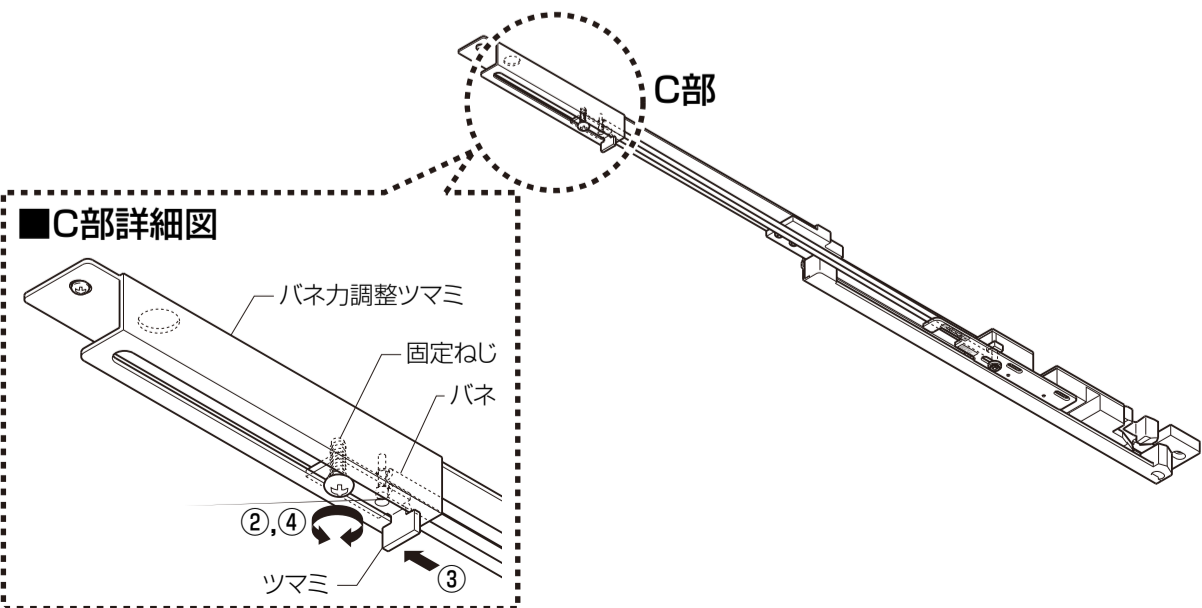


閉まり時間を早くしたい場合、枠の建付け状態で最後まで閉まりきらない場合

※動作区間までの障子を閉めるスピードを早くする、又は以下の手順で引込む力を調整してください。

- ①障子を全開位置まで開ける。
- ②バネ力調整ツマミの固定ねじをゆるめる。
- ③縦枠側(バネを引っ張る方向)にツマミを動かす。
- ④固定ねじを締める。

※動かすすぎると障子を開く力が重くなります。



衝撃吸収力が物足りない場合

※動作区間までの障子を閉めるスピードをゆっくりにする、又は以下の手順で衝撃吸収力を調整してください。

※障子の閉まり時間が長くなりますので、外気温が上昇する季節のみの調整をおすすめします。

- ①障子を全開位置まで開ける。
- ②調整金具の固定ねじをゆるめる。
- ③調整金具を"強"の方向(召合せ側)に移動する。
- ④調整金具の固定ねじを締める。

※外気温が低いときは、この手順の逆に調整して元に戻していただくことをおすすめします。

